

タイトル：平成 30（2018）年度 教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

岡本 多久実（中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士前期課程 1 年）

私は 2018 年の 9 月 13 日から 16 日にかけて、中東☆イスラーム教育セミナーに参加した。本セミナーはイスラーム関係の様々な研究者・学生が一堂に会する場であり、自分の研究を進めるうえでとても刺激を受けるものであった。

セミナーで印象に残っていることとしてまず挙げられるのは、やはりイスラーム関係の様々な分野の研究者から講義を受けたり、直に話を聞いたりできたことである。中でも参考になったのは、自分と同じオスマン朝史を専門としている先生の講義である。今回講義をした方は黒木英充先生と高松洋一先生であった。論文を通してしか知らなかった先生方の研究遍歴やその内容について、講義形式で直に聞くことができたのは、自身の研究にとっても参考になるものであった。

また、自分の専門以外の先生の講義を受講できたことも、自身の知見を広げるうえで勉強になった。私は自分の専攻が東洋史学であるため、イスラーム研究といった時、どうしても西アジアの歴史を中心に考えてしまう節があった。しかし、今回のセミナーで西アフリカ史、イラン文学、東南アジアの文化人類学や中東ジェンダー研究など、様々な分野の先生の講義を聞いたことで、イスラーム研究という言葉が指す学問範囲がとても広範なものであるということを改めて認識することができた。

このような先生方と、セミナー以外の時間で話や相談ができたことも、私にとって良かったことの一つだ。ここでは講義を受け持っていない先生方とも話すことができた。自分の研究内容について、このようにたくさんの先生に対し直接質問や相談ができる機会はこれまでなかったのも、とても新鮮であり、研究の参考になった。また、卒業後の進路(進学か、就職か)についても相談することができ、色々と参考になる意見を聞くことができた。今まで私はなかなか自分の具体的な研究方針が定まらず、漠然とした不安を抱えていた。しかしここで研究について熱い激励を受けたことで、これからの研究生活に向け奮起することができた。

更に、イスラームを研究する同世代の学生と交流できたこともうれしかった。自分が在籍している大学院には、博士前期課程でイスラーム関係のことを研究する院生が私以外にいない。そのため、今までは研究について同世代の人たちと話し合うこともできなかった。しかし今回のセミナーを通して、10 人以上のイスラーム研究をしている学生と知り合うことができた。しかもその中にはオスマン朝、ないしはトルコ関係の研究を行っている人も複数人いた。彼らの発表を聞いたり、彼らと話し合ったりすることを通して情報交換ができたことは、他人と比べての自分の研究状況を再認識することにつながった。

以上のような先生方や学生たちとの交流においてとても役に立ったのが、今回のセミナーから導入されたポスター発表である。私は先述のように研究方針が定まっていなかったため、皆の前で研究内容を発表する発表者としてセミナーに参加することはできなかった。しかしポスターによって簡易的にでも発表できたことで、先生方や学生に自分の研究について知ってもらえたため、彼らとの相談を円滑に行うことができるようになった。ポスター発表という枠があったことは、私にとって非常に助けになったのである。

今回のセミナーを通して、私は自分の研究に参考になる知識を得ることができただけでなく、様々な研究者、学生と交流し、彼らとつながりを持つこともできた。ここで経験したことを無駄にせず、今後の研究生活においても役立てていきたいと思う。

最後に、このような場を設けて下さった関係者の皆様にお礼を述べることで、本文の締めとさせていただきます。本当にありがとうございました。